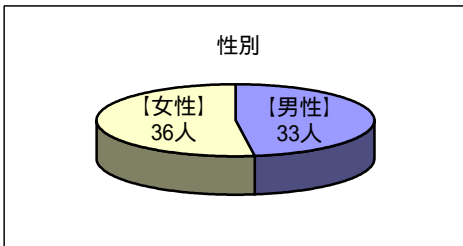
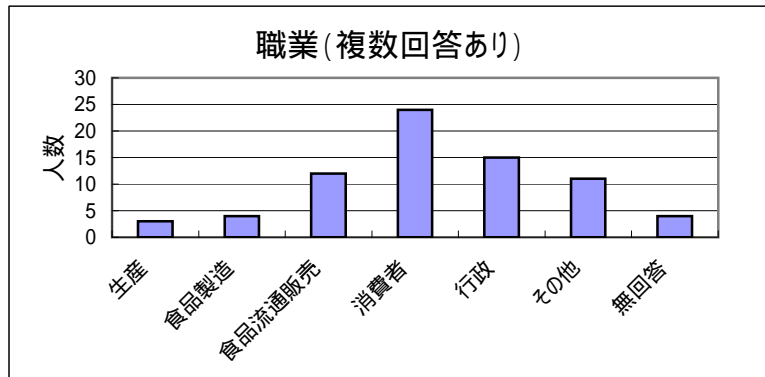
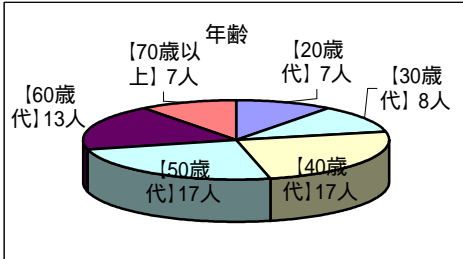


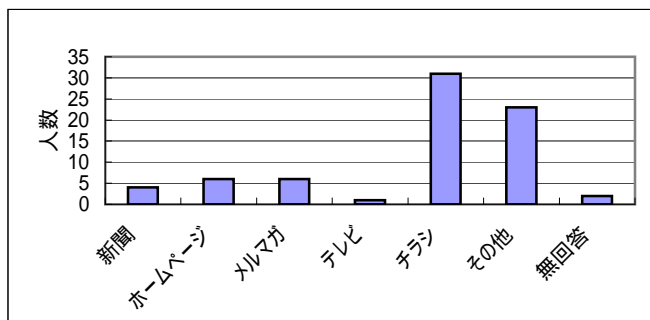
食の安全・安心シンポジウムアンケート結果

シンポジウム参加者数	81人
アンケート回答者数	69人(85%)

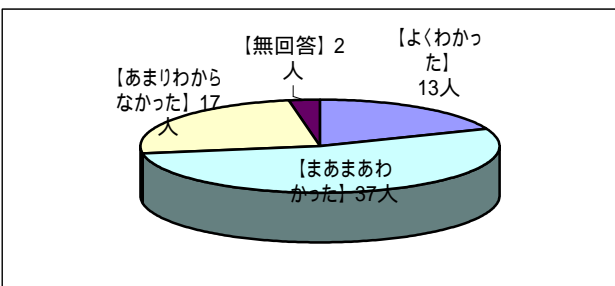
問1 あなたについておたずねします。



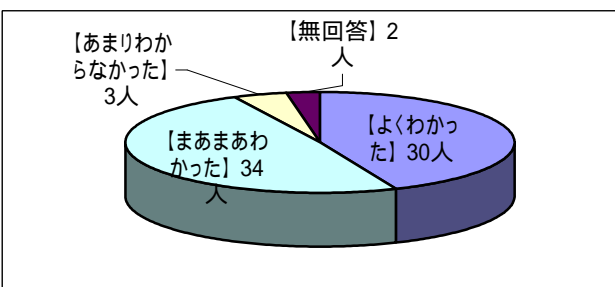
問2 今回のシンポジウムを何でお知りになりましたか。(複数回答あり)



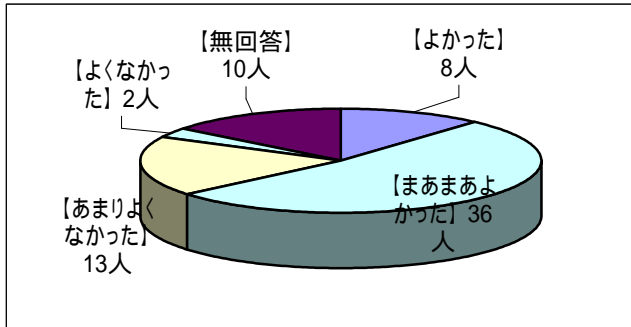
問3 講演「輸入食品の安全確保～検疫所の仕事～」について、いかがでしたか。



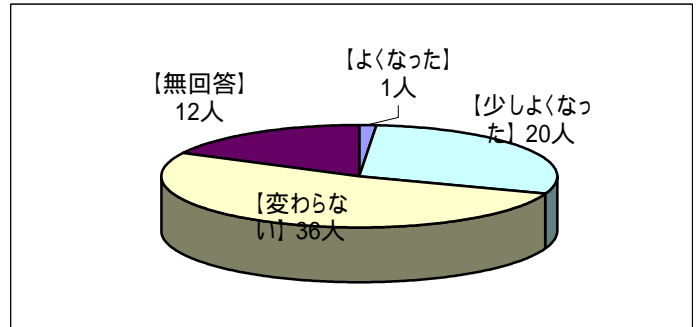
問4 講演「食品のリスクとのつきあい方」について、いかがでしたか。



問5 パネルディスカッションはいかがでしたか。



問6 今回のシンポジウムで、輸入食品について見方が変わりましたか。



問7 今後、食の安全・安心シンポジウムに参加するとしたら何について知りたいですか。

- ・食品添加物について、複数使用された場合の安全性について
 - ・食品の表示、選び方
 - ・地産地消、自給率向上など食農テーマ
 - ・食糧自給率と食の安全・安心について、また行政における取り組み
 - ・輸入食品の残留農薬検査値や原産国の説明、輸入加工食品について、
 - ・鳥インフルエンザ、BSE
 - ・食肉の検査 国産食品の安全性確保について(地方自治体の仕事)
 - ・産地偽装と食の安全・安心との関係
 - ・食事バランスガイド(健康でいられる食生活)
- など

問8 ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。(抜粋)

- ・検査をされている方の人数が全国で340人前後とはあまりに少人数でびっくりした。
- ・100%安全安心な食品は無いこと、輸入品も検査、管理され心配いらないこと、今まで何度も聞いてきたが、今日は実際に現場で携わっておられる方から話が聞けて良かった。とは言うものの、自給率も上がって欲しいし、生産者(地元国産の)も応援したいので、又フードマイレージのこともあり、地元のものから買いたいというのが本心。
- ・「食品のリスクとのつきあい方」の説明は1日摂取許容量をどうして決めているのかとの日頃の疑問に対して理解を与えてくれた。食品安全委員会の存在を知ったことも良かった。
- ・「リスクとのつきあい方」について考えるべき点を再確認できた。何が正しいか情報を的確につかんでいきたい。情報がとびかかって難しい世の中だが…。
- ・話を聞くだけでなく、参加型のディスカッションの形は良かった。内容としては、講演は少し難しい話だが、聞くことにより、理解が出来、周りの意見にふり回されない考え方が少しでも身に付くのではと感じた。
- ・パネルディスカッションで自分だったらどうするといった部分で自分以外の意見を聞くことができ、勉強になった。もっと質問があり、自分で考え色んな意見が聞けたらなと思った。
- ・今回のパネルディスカッションに生産サイドの声も取り入れると良いと思う。何故なら食品安全衛生の内閣府の立場から厚生労働省のみの意見でなく生産者側の農水省の方も同席させると面白い反応が期待できたかもしれない。
- ・食の安全については、様々な検査がありよくわかったが、意見交換において安全だけではなく、安心がないと買わない人が多いように思えた。安心について重点をおいたシンポジウムに参加したい。
- ・食に関して「偽」表示が多すぎたために、何を信じれば良いのか分からなくなっている。まずは、表示を信頼して読める様な世の中にならなければならないと思う。
- ・産地偽装の問題が多々あり、直接「安全」とは関係ないとしても行政法違反の罰と刑事罰との間に大きな隔たりがあるように感じます。行政罰と刑事罰との線引きと企業者が二度とできない様なシステムができれば感じます。(食品関係については特に)